平成23年度

長岡京市立中学校国際理解教育推進事業

米国マサチューセッツ州
アーリントン姉妹都市訪問
報告書

長岡京市立中学校国際理解教育推進協議会

は　じ　め　に

学校教育課指導主事
平　山　孝　次

４月 23 日に出発して５月４日までの 12 日間、中学生 16 名、高校生４名、引率者４名の計 24 名が長岡京市の代表として、アーリントンを訪問してまいりました。連日爽やかな快晴の下、全行程を無事終了することができましたのも、本事業を御支援いただきました関係者の皆様、そして、温かく見守っていただきました保護者の皆様のおかげです。心より御礼を申し上げます。

全行程を振り返りますと、訪問団員は、与えられたチャンスを生かしてチャレンジをし、自分自身をチェンジすることができたと確証しております。

今年度の訪問団員には、「チャレンジャー、メッセンジャー、そして、チームプレイヤーになろう」という、具体的なイメージを事前に持たせていました。

全行程の中で、印象に残ったことが３つありました。

１つ目は、ハプニングを乗り越えていくことで、訪問団員が成長していったということです。どんなことにもポジティブにとらえ、いつも笑顔で過ごすことができました。

２つ目は、文化の違いを敏感に感じ取っていたということです。食べ物や建物の違いはもちろんのこと、授業を受ける姿勢等の違いにも触れ、日本での生活を振り返る機会となったことでしょう。特に、授業の、児童・生徒が積極的に自分の考えを発表していく姿は参考すべき点です。

そして、３つ目は、自分たちの課題をチームワークでカバーしていったということです。言葉も違う知らない土地に行けば、声は出にくいもの。各訪問先で披露したダンス発表の際、掛け声が小さいという課題が常にありました。最後の発表となった桜祭りの際には、団員自ら考えた円陣を組み、大声を出してから挑みました。その結果、これまでにない立派な姿を披露し、見ていた私までも熱くなりました。

一方、プログラムの中で、各大学を訪問した際、ボストンで活躍される日本人と多く出会いました。特に、ハーバード大学で教鞭をとられる長岡第四中学校出身の石井水晶先生とお出会いし、お話をお聴きする機会が得られたことは特筆すべき点であります。石井先生は、英語を覚える秘訣として、「友達の中に自分から入っていくことで、英語が話せるようになっていった。友達の中に入るためには、何か人よりもできるものを持つことが、仲間に入るチャンスとなる。」と語っておられました。今回の出会いを一つのきっかけにして、訪問団員が世界の中で活躍していくことを期待するばかりです。

終わりになりますが、今回の訪問に際しまして、各小、中、高等学校はもとより、アーリントンの方々の温かい歓迎と格別なる御支援をいただきましたことに感謝申し上げます。また、出発前に起きました東北地方太平洋沖地震については、どこを訪問しましても、ご心配いただきました。特に、タウンミーティングを見学した際には、壇上に招かれ、義援金を預かるというような場面がございました。また、同じ会場で、涙を流しながら「がんばれ、日本！」と応援していただく方を目にして、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

世界がつながっていることを実感させられる本事業が益々発展していきますことを祈念し、団長からの報告とさせていただきます。

目　　次

はじめに

Ⅰ　訪問の部

１　団員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

３　生徒感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４～１３

４　アーリントンだより

※今年度は、来訪は中止となりました。

Ⅰ　訪問の部

1　訪問団員名簿

役員・引率者

役職	氏名	備考
団長	平山　孝次	長岡京市教育委員会　指導主事
副団長	仲村　久美子	長岡第四中学校　英語科教諭
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	遠山　園栄	長岡京市　国際理解教育交流指導員

生徒

学年	生徒氏名	備考
2 年	八木　美沙希	長岡中学校
3 年	平岡　海帆子	長岡中学校
3 年	有井　美咲	長岡中学校
3 年	能勢　昌鷹	長岡中学校
3 年	大村　佳那	長岡中学校
2 年	渡邉　友佳	長岡第二中学校
3 年	栗栖　直紀	長岡第二中学校
2 年	伊東　有希	長岡第三中学校
3 年	池野　栞	長岡第三中学校
3 年	藤野　真央	長岡第三中学校
3 年	村田　理帆	長岡第三中学校
2 年	山﨑　亮太郎	長岡第四中学校
2 年	湯川　希	長岡第四中学校
3 年	米山　美沙紀	長岡第四中学校
3 年	木畑　総司	長岡第四中学校
3 年	出口　瑶子	長岡第四中学校

高校生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	川俣　朋子	西乙訓高校　英語科教諭
2 年	青山　恵理子	西乙訓高校
2 年	上羽　一肇	西乙訓高校
2 年	島田　知美	西乙訓高校
2 年	浅島　眞言	西乙訓高校

2　訪問日程

月　日(曜日)	時　間	行　　程
4/23（土）	10:30	長岡京市役所集合・出発
	11:30	伊丹空港着
	12:30	羽田空港着
	13:40	成田空港発
	18:00	空路、シカゴ経由でボストンへ
4/24（日）	11:00	アーリントン到着後ホストファミリー宅へ
		ホストファミリーディ
4/25（月）	8:05	ピアース小学校訪問（文化交流）
	13:30	バーリントン・モールへショッピング（夕食はモールにて）
	18:15	モール出発
	18:45	第一回タウンミーティング見学
	19:45	終了
4/26（火）	8:45	タウンホール前集合
	9:00	ロビンス図書館ツアー
	9:45	レキシントンセンターからコンコードへ
	10:45	コンコードにてサイクリングツアー開始
	16:45	レキシントン出発
	17:30	タウンホール　着
4/27（水）	8:00	アーリントン高校訪問、ランチ、教育長面談
		＊高校生は授業体験（シャドーイング）
	12:00	MIT、ハーバード大学見学、ハーバードスクエアへ
	17:30	アーリントン高校で解散
4/28（木）	8:00	オトソン中学校授業体験
	14:30	アフタースクールアクティビティ・スポーツ交流
	18:15	「さくら祭り」 文化交流など
	20:00	ダンスパーティ
	21:30	終了
4/29（金）	8:45	アーリントン高校集合
	10:00	クジラ観測船に乗船
	14:30	クインシーマーケットとファニュエルホールにてショッピング
	19:05	フェンウェイパークにてレッドソックス野球観戦
	22:00	タウンホール着
4/30（土）	9:00	シックスフラッグス（遊園地）
	18:00	アーリントン帰着

月　日	時　間	行　　程
5/1 （日）		ホストファミリーディ　以下オプション： 5:00am　よりチャールズリバーでお祭り、チャイナタウン、ボストン美術館、ボストンフリーダムトレイル、スワンボートなど
	18:00	フェアウェルパーティ（タナー家にて）
5/2 （月）	10:00	ボストン消防署見学、バークレー音楽大学見学、プルーデンシャルビル、ランチとショッピング
	18:00	バーベキューパーティ（ノーボーグ・ボーム家にて）
5/3 （火）	7:00	ロビンス図書館前集合、アーリントン出発
	10:30	ボストン空港発シカゴ経由成田空港へ
		～日付変更線通過～
5/4 （水）	16:15	成田空港着
	20:15	羽田空港発
	21:30	神戸空港着
	22:00	神戸空港発
	23:00	長岡京市役所　着後　解散

3　生徒感想文

１．長岡中学校　２年　　八木　美沙希

私がアーリントンへ行く前の目標は、「一人でも多くの人に積極的に話しかける」でした。
しかし、いざ外国の人たちを目の前にすると緊張してしまい、通じなかったら恥ずかしいと思いがよぎり、なかなか積極的に話しかけることができませんでした。あんなに今まで頑張って英語を勉強してきたのに、私には勇気が一歩足りませんでした。そんな自分が情けなく、いやでした。しかし、ホストファミリーやアーリントンの人たちは、そんな私に優しく、どんどん話しかけてくれました。しかも、私の片ことの英語でも聞き取ろうと必死に耳を傾けて聞いてくれ、わかりやすい単語でゆっくり話してくれました。お互いに仲良くなろうとする気持ちがあれば、心は通じ合えると言う事を学び、自分から積極的に話す勇気を持つことができました。　私は、アーリントンへ行き、たくさん学び、そして成長できたと心から思います。この体験は、これからの私にとってプラスになるよう、生かしてがんばっていきます。またこんな貴重な体験をするチャンスを与えてくださった方々や今まで英語を教えてくださった方々、ずっと私を支えてくださったすべての人に感謝したいです。本当にありがとうございました。

２．長岡第二中学校　２年　　渡邉　友佳

私は、このホームステイで印象に残っていることが二つあります。一つ目は、オトソン中学校でのシャドーイング体験です。このシャドーイングでは、言葉が伝わるかとても心配で不安でした。だからクラスに入った時、日本人が私一人だけだったので、やっぱり不安な気持ちでいっぱいになりました。そんな中、一人の女の子がニコッと私に笑いかけてくれたのです。その時、不安や緊張のすべてが無くなった気がしました。それからも「Hi!」や「そのかばん可愛いね。」などと、声をかけてくれました。そして帰るときに「あなたのことはずっと忘れない。」と、言われました。ほんとうに嬉しかったです。このシャドーイング体験で、自分も色々な人に声をかけられるやさしい人になろうと心から思いました。そしてもう一つ印象に残っているのは、ホストファミリーのことです。私のホストファミリーのＥＶＡはとても親切でやさしい女の子でした。そしてＥＶＡは日本の事が大好きです。たくさん日本語を教えてあげました。また、困っていると必ず助けてくれました。英語がわからなくても、ジェスチャーで教えてくれたり、電子辞書で教えてくれたりしました。10 日間ＥＶＡと一緒に生活できて本当に良かったです。今回のホームステイは、毎日が夢のような 10 日間でした。帰って来た今でも信じられず、まだ夢のように感じています。また、今回一緒にアーリントンに行った 20 人のメンバーも、みんなやさしくしてくれて、このメンバーで良かったと心から思っています。このような貴重な体験をさせていただいたすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

３．長岡第三中学校　２年　　伊東　有希

アーリントンに行く前日、私は楽しみな気持ちよりも不安の方が大きく、とてもドキドキしていまし

た。でも当日になって、メンバーのみんなに会うと一気に不安も無くなり、笑顔で長岡京市を出発することができました。この旅を通して、半年間一緒にやってきたメンバーの心強さを感じることができました。10 日間色々なイベントがあって、一つ一つに感じるものがありました。特に、この 10 日間で私は大切な人とたくさん出会う事ができました。まずは、毎日お世話になったホストファミリーのみなさん。初めて出会ったときから、前から知っている人のように最高の笑顔で迎えてくださいました。毎日、ホストファミリーと過す時間が楽しくて仕方ありませんでした。でもその反面、伝わらなくて悔しい思いをしたこともたくさんありました。必死にわかろうとするホストファミリーの表情に、胸が痛みました。でも、その経験を乗り越えてこそ味わえる喜びもたくさんありました。同じホストファミリーのユカと言いたいことが伝わって喜んだことを、私は忘れません。ホストファミリーのことは、本当に大切な家族だと思っているし、あの家庭にステイできて本当に幸せだと感じています。20 人のメンバーも、側にいるだけで本当に心が強くなれる、そんな家族のような存在でした。一人ひとりのメンバーの個性を見つけることができたし、最高の 20 人だったと思います。たくさんの出会いや感謝を発見できました。

４．長岡第四中学校　２年　　湯川　希

楽しみにしていたアーリントン訪問は、私達より先に荷物がボストンに着いてしまうというアクシデントから始まりました。初めてのアメリカ！車が右側を走っていたり、食べ物のサイズが大きかったり、様々な日本との違いに驚愕する毎日でした。

アーリントンの人々はとても陽気で、気軽に「Hi!」や「Hello!」と声をかけてくれました。私は、自分からは声がかけられず、恥ずかしい思いをしました。それに、とてもはっきりしていて、日本なら「どっちでもいい」という選択肢があるのですが、「Yes」か「No」しかありません。何も言わずに黙っていたら、「はっきりしてね」と言われ、自分の意思を持つことの大切さを感じました。これから、自分の思ったことは口に出して伝えようと思いました。そして、みんなおおらかで足を踏んでしまっても、水をこぼしてしまっても、些細なことは気にせず、「It’s OK!」と言って笑ってくれました。　みんなの優しさに救われる毎日でした。12 日間のプログラムで、現地の小・中・高校生との交流や授業体験、見学など多くのイベントがあり、貴重な体験をする事ができました。色々なトラブルが起きても、みんなで乗り越えられ、楽しい時は盛り上がり、訪問団としての絆も深まり、一つの輪となりました。この訪問で学び、感じた事は、これから自分が歩んでいく将来に、生かされると信じています。私たちを支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

５．長岡第四中学校　２年　　山﨑　亮太郎

私たちは、姉妹都市アーリントンへ 10 泊 12 日間ホームステイをしてきました。ここでは、日本とアメリカのあらゆる方面での違う点について書きたいと思います。まず、アメリカについて思ったのは、土地が広いということです。空港もそうですが、各家庭の敷地や公園、さらには道路まで。道路に関しては、対向車線を分ける線はあっても二車線に分ける線が無く、かなり横幅が広かったり、車線が４つ５つあったりと、驚きでした。また、土地が広いので気持ち的にも開放感があり、いるだけで落ち着き

ます。人に関して言えば、みんなものすごくフレンドリーで優しかったです。一度会えばすぐに名前を聞かれ、すぐに自己紹介をします。特に誰でも嫌がることはなく、すごく仲良くしてくれます。「アメリカは何もかもが大きい」と、みんな口を揃えて言っていました。僕たちがアメリカに着いて初めて食べた食事は、拳二つ分程あるハンバーガーに、ジョッキで出てくるジュースと、大量のフライドポテトでした。もう笑うしかありません。何しろメニューを見て確かにサンドイッチという欄から選んだのにハンバーガーが出てきたのですから。人も同時に大きい。僕も身長は１８０ｃｍくらいで日本では大きめですが、アメリカではずっと背伸びしているくらいでした。本当に大きいです。最後に、アメリカの最も良い所だと思ったのは、自由と自己表現です。自由の国どおり、やはり自由でした。授業中に音楽を聞いていたり、水を飲んだり、それが一番驚きでした。もう一つの自己表現は、授業中手を挙げない方がおかしい、自分は何を考えているのか伝えたくてたまらない、という考え方です。ぜひ真似したいです。最後にずっと家で待っていてくれた家族、サポートしてくれた皆さん方、すべての人に感謝の気持ちを表したいと思います。ありがとう！！

６．長岡中学校　３年　　大村　佳那

私はアーリントン友好訪問団の体験を通して、たくさんの事を学ぶことができました。6 日目の夜、ダンスパーティがあり、このようなイベントはあまり日本には無く、少し戸惑いましたが、リズムに合わせて身体を動かしているだけで、いつのまにか大きな輪が出来、「Good job!」「Good dance!」など簡単な言葉を話すだけで仲良くなり、言葉が無くても人と通じ合えるのだということを知りました。また、小学校と中学校を訪問した際、質問タイムがあり、質問される時はたくさん質問が出ましたが、質問する側になると恥ずかしくてあまりできなかったことが、私にとって「恥ずかしさ」は大きな勘違いなのだと思いました。どの体験も私にとってプラスになることばかりで、色々なことを考え、感じさせられました。このような経験ができたのも、引率の先生方やホストファミリーなどの多くの方々の支えのおかげだと思います。ありがとうございました。これでアーリントン訪問は終わりましたが、この経験を今後の自分に生かせていきたいと思います。次はもっと英語を勉強してまたアーリントンに行きたいと思います。

７．長岡中学校　３年　　平岡　海帆子

私は、このアーリントン友好訪問団に参加できて本当に良かったと思っています。最初は、「ホストファミリーとうまくやっていけるだろうか？」「英語は通じるだろうか？」と、たくさんの事が不安でした。けれど、アーリントンの人たちは、私達が来るのを本当に楽しみに待っていてくれ、そのことがとても嬉しかったです。アーリントンでの日々は、私にとってすべてが勉強になりました。中でも、オトソン中学校を訪問できたことが一番の思い出です。授業はすべて英語なので、理解するのは難しかったけれど、少しでも理解出来た時は、とても嬉しかったです。その夜行われた桜祭りでは、メンバー全員が一つになり、鳴子を踊ることができました。ホストファミリーは緊張している私に、いつも喋りかけてくれました。それをきっかけにたくさんの話をし、遊びました。ホストファミリーとの会話は、わかりたくて必死に聞いていました。何日かすると少しずつわかってきたのに、今度は自分の思いを伝え

るのに苦労しました。伝わらない時はジェスチャーを使い、自分の英語が伝わった時はとても嬉しかったです。観光では、レッドソックスの試合を観戦できたのが、楽しかったです。その日はマリナーズと対戦で、イチロー選手、松坂選手や岡島選手が見られ、本当に運が良かったなと思いました。試合では、練習してきた歌が歌え、盛り上がりました。みんなで大声で歌いました。私がこんなにアーリントンでの生活を楽しめたのは、学習会からお世話になった先生達や友達、ホストファミリーの皆さんのおかげです。アーリントンで学んだことは、誰もができたことではないので、今回の貴重な体験をこれからの私自身に生かせていければいいなと思います。

８．長岡中学校　３年　　能勢　昌鷹

　僕のアーリントンでの一番の思い出は、最後のパーティです。色々な人に話をしたり、ホストマザーと話ができたのがとても良かったです。他にも、ホエールウォッチやレッドソックス対マリナーズの野球試合観戦、シックスフラッグスの遊園地など、色々な面白いことがありましたが、アメリカ人と話した時間が一番良かったと思います。もちろん家でも英語で話していましたが、僕は質問されるばかりで、「Yes」「No」としか答えられませんでした。このパーティでは、「最後だから、みんなにいっぱい話しかけよう」と思って、色々な人に話しかけました。英語が通じると、とても嬉しいです。自分の言いたいことが外国人に伝わると、今までがんばって学習会などで勉強した甲斐があると思いました。今回の旅で自信がついたので、もう一度行きたいです。ホストファミリーに「いつでも来ていいよ。」と言われたので、今度は一人で行きたいと思います。また、日本でも、アメリカは日本と全然違うと言う事を、まだまだ伝えきれていないので、もっと伝えていきたいと思いました。

９．長岡中学校　３年　　有井　美咲

　「言葉の壁」これは、私にとって一番の難題でした。「ホストファミリーとはうまくいくだろうか？」など、色々な悩みを抱えて日本を旅立ちました。
　実際は、ホストファミリーは優しく、そしてたくさん話しかけてくださいました。決して上手ではない私の英語を一生懸命聞いてくださいました。自分の英語が初めて通じた時は、本当に嬉しかったです。とても優しくしてくださったホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。特に、ホストマザーには毎日の送迎、洗濯、食事などたくさんの面でサポートしていただきました。本当に、本当にありがとうございました。これからもイーメールなどで、繋がっていきたいと思っています。また、私たちはオトソン中学校でダンスパーティに参加しました。私はダンスを習っていて、ダンスが大好きだということもあり、また、ダンスパーティには一度も参加したことが無かったので、このプログラムにはとても興味がありました。実際参加してみて、とても楽しかったです。一度も話したことがない子や、一緒に日本から行ったメンバーなど、たくさんの人たちとダンスをすることができました。みんなとダンスをする時は、言葉などは関係なく、一緒に踊っているだけで楽しむ事ができました。最後に、このプログラムに関わっていただいた長岡京市の皆さん、アーリントンの皆さん、先生や家族、応援してくれた友達、現地で出会った人々、毎週一緒に勉強した仲間達すべての人にありがとう、を伝えたいです！！とてもいい経験ができました。本当に、本当にありがとうございました。

１０．長岡第二中学校　３年　　栗栖　直紀

僕はアーリントン訪問団員の活動に参加させていただいて、気づいたことと楽しかったことのうち、二つを発表します。

一つ目は、小・中学校・高校に行きましたが、初対面の相手に対して、男女問わずに気軽に自己紹介してくれるということに驚きました。日本では気軽に初対面の相手と話したり、自己紹介をする事を恥ずかしいと思い、なかなかできないと思います。逆に、恥ずかしいと思い、人と接する事ができなければ、その方がよほど恥ずかしいのだと気づかされました。一番楽しかったことは、一日の予定が終わった後のホストファミリーと過ごすわずかな時間でした。ぼくのホストファーザーはアイスホッケーにとても熱狂的で、一緒にアメリカンサイズのピザを食べながら、ホッケーの試合を観ました。ホストファミリーのブレンダンとエイダンとバスケットボールや野球をしたりして、ホストファミリーとの交流関係を築くことができました。以上の二つ以外のたくさんの思い出や経験は、これからの人生の大きな糧となりました。このアーリントン訪問団員としての活動に参加出来た事をとても幸せに思います。支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

１１．長岡第三中学校　３年　　池野　栞

私は、今回のアーリントン訪問がすごく楽しみで仕方ありませんでした。だけど、半年しか勉強をしていなくて、現地の人が実際本当に理解してくれるかすごく心配でした。案の定、ホストファミリーに会い、最初に話しかけてくれた内容が聞き取れませんでした。二回ほど聞き返すと、「ＯＫ」と言われてしまい、すごく悲しくなりました。でも、次の日から、自分が理解するまでゆっくりと、できるだけわかりやすい単語を使って話してくれました。すごく嬉しかったです。アメリカで初めて感じた事は、アメリカ人はすごくフレンドリーだということです。理由は、スーパーに連れて行ってもらった時に、店の中で会う店員さんのほとんどが、私のホストマザーに「How are you?」と声を掛けていたからです。別に知り合いではないと思うのに、声を掛けられるのは現地の人がフレンドリーだからだと思いました。

私が今回の訪問で一番印象に残っているのは、ホストファミリーデイの時に連れて行ってもらった乗馬体験です。私は馬が大好きなので、ぜひ連れて行ってほしいと思っていました。日本では、係の人が手綱を持って歩くだけでしたが、こちらでは、馬に乗り、係の人に手綱を渡されて、前の馬に付いて行くというものでした。一人で乗るのは初めてで、ドキドキしたけど楽しかったです。私のホストファミリーはみんなとても優しくて、いつも私に笑顔で話しかけてくれました。ほんとうにたくさんお世話になりました。どの食器がどこにあるのか、他にもたくさんいろんな事を教えてくれました。あっという間の 12 日間でした。最後の日には、絶対帰りたくなかったです。帰りたくなくなるほど、とても満喫できたし、充実していました。

１２．長岡第三中学校　３年　藤野　真央

私が一番印象に残ったのは、ホストファミリーとの日常生活や、ホストファミリーデイです。その二つの中で私が嬉しかったことがあります。まず、ホストファミリーは、英語に不慣れな私達に優しかっ

たことです。たとえば、わかりやすくゆっくり話してくれた事や、私たちがわからない顔をしていたら、理解できるように説明しなおしてくれた事などです。

二つ目は、自由に生活させてくれたことです。ただ、自由なのではなく、お風呂のタイミングや、今日は何をして何時に寝る、起きる・・など、全てにおいて選ばせてくれました。そのおかげで、しんどい思いをすることもなく、楽しく生活できたし、そんな優しいホストファミリーだったからこそ、恐れることなく英語を話したり、日本の事を伝えたりできたのだと思います。今回のアーリントン訪問は、本当に貴重で、いい体験になりました。ありがとうございました。

１３．長岡第三中学校　３年　　村田　理帆

私がアメリカに行って、まず驚いたのが食事です。聞いたことはあったけど、食べられる、食べられないに関係なく量が多い！初めの頃は常に「お腹いっぱい！」って感じでした。けれど、食べきれない時は、「もったいない」と、いつも思っていました。他には、小・中学校では昼食に、店ではハンバーガーなどに、必ずフライドポテトが付いてきました。私はそれにびっくりしました。なぜなら、主食はパンかご飯だと思っていたからです。アメリカでは、ポテトが主食になっていることを知りました。お菓子や料理は、基本的に日本より味が濃く、特にチョコレートは一つが大きくて甘かったので、一口で「もういらん！」と思えるほど満足できました。私がアーリントンで楽しかった出来事の一つが、ダンスパーティです。私たちはオトソン中学校で毎年開催されるダンスパーティに参加しました。みんなノリノリで、一人一人が好きに踊る・・・アメリカらしいな、と思いました。私たちもそれにつられ、気分が高揚しました。とても楽しかったです。

滞在が半分ほど過ぎたころ、学習会で覚えた１００ワードを順番に使っていくことにしました。会話が通じると嬉しかったです。そして、最後に、ホストファミリーにはたいへんお世話になりました。とても親切にしてもらいました。私からは、日本の文化を伝えることができて良かったです。ありがとうございました。アーリントンは、日本と違うことばかりでした。その違いはとても勉強になったし、私の世界観が広がりました。こんな貴重な体験ができてとても良かったです。この体験をこれからの色々な場面で生かしていきたいと思います。

１４．長岡第四中学校　３年　　木畑　総司

僕が初めにアーリントンで感じた事は、日本人とは違いアーリントンの人たちは、見ず知らずの僕に、とてもやさしく話しかけてくれたことです。このような温かい接し方に、とても嬉しくなりました。お世話になったホストファミリーには、本当に感謝しています。食事はとてもシンプルで、主食というものがありません。さらに毎食、各自にたくさんのナプキンが用意されていて、レストランのようでした。

特にホストファミリーといて気づいたことは、アメリカ人は日本人みたいに気を遣ったりせず、欲しい物は数に関係なく、食べ過ぎたりすることです。それに、時間にとてもルーズで、僕の場合は集合時間を過ぎそうなのに「掃除をしてくれないか？」と言われ、ホウキを渡されたりして、ひどくあせりました。会話をするときも始めは戸惑い、困惑しましたが、日本で習ったことを活用して話すと伝わりました。言葉だけでは厳しいので、ジェスチャーは大切でした。ダンスを披露した時は、日本では味わえ

ない大歓声を受け、やりがいがあり嬉しかったです。オトソン中学校では、日本みたいに校則が多くなくて自由でした。授業中にクッキーが配られてびっくりしました。

夜のダンスパーティでは、授業では大人しかった生徒が踊っていて、びっくりしました。けれど、その場の雰囲気は、そうしないと恥ずかしいくらいでした。日本では、こんなに大胆な事は経験できないだろうと思いました。小学校で折り紙を教えていると、年齢に関係なくアメリカ人は折るのがへたで不器用でした。日本人の器用さは、このような文化の違いに関係している気がしました。別れの日、ホストファミリーは、「いつでも帰ってきてね。」と、言ってくれてとても感動しました。そして、この訪問でお世話になった人たちに、心から感謝します。本当にありがとうございました。

１５．長岡第四中学校　３年　　出口　瑶子

私がアーリントンに行って、一番心に残っているのはホストファミリーです。ホストファミリーに初めて会った時、ホストマザーがハグで迎えてくれました。私はすぐにホストファミリーに馴染むことができました。つまってばかりの私の英語を、真剣に聞いてくれました。一回で聞き取れなくても、伝わるまで何度も言ってくれました。ホストファミリーのやさしさに胸が熱くなりました。聞き取れたときや、伝えることができたときの嬉しさは今でも忘れません。家の庭は広く、高い木にブランコが吊されていたり、ハンモックがあったりしました。家にいるときは、いつもホストファミリーのリリアンと一緒に遊んでいました。遊んでいる時は、時間も忘れるくらい楽しかったです。スーパーに行くと、お刺身が売っているのを見て驚きました。その日の夜は、みんなで手巻き寿司を作って楽しみました。私が、日本との文化の違いを感じたのは、「黙っていても何もしてくれない。」そして、「Yes」と「 No」がはっきりしているということでした。私は、このアーリントン訪問を通して、決断力や積極性を養う事が出来たと思います。この 10 日間は私にとってかけがえのないものとなりました。お世話になった人たちに感謝しています。本当にありがとうございました。

１６．長岡第四中学校　３年　　米山　美沙紀

私は、一昨年の応募に一度失敗していた。それでも、4 人に 1 人しか受からないという今年の試験に応募したのには、強い思いがあった。私は、5 年前にこの交流に参加した兄からアメリカでの経験や感想を聞いていた。もともと海外に行くのに憧れがあって、こんなチャンスはない、この目で見てみたい、そう思ったのである。そうして挑んだ試験に受かった私は、念願のアメリカへ行くことになった。厳しく、そして楽しかった半年間の学習会が終わり、待ちに待った出発日当日、私は体調がすぐれず、一時は「行けないかもしれない」ということも考えねばならなかった、慌ただしい一日だった。結局、一日遅れでアメリカに行ったが、「ああ、アメリカだな。」と、すぐに実感した。まず、空港が広い。それに、右側通行だし、道に止まるパトカーのランプは青色。「日本ではない」と、胸が躍った。緊張したホストファミリーとの対面は、みんなとても優しく明るいことに、とても安堵した。滞在中に訪ねた小・中学・高校では興味深げに話しかけてくれる生徒も多く、町にいるとたくさんの人が優しくしてくれた。先の地震により放射能が漏れた国から来たのか？と、嫌な顔をされることもなかった。また、道路には信号が少なく、みんなが譲り合っているのを見て、アメリカ人の心の寛大さに感動した。見てみたいと

思っていた文化の違いはすぐに分かった。まず、食文化では、何より量が多い。そして味はあまりおいしくない。他には、野球場などの公共の場でも、普通にゴミを地面に捨ててしまうのである。日本では絶対にないな、と私は日本人の謙虚さに感心してしまった。こんなことは実際に見てみないとわからなかったことだ。自分で思っていたよりずっと有意義な 10 日間だったと思う。思い出は、一分一秒全部。日本とは全然違うので、ボケっとはしていられなかった。だが、何が楽しかったか、と強いて言うなら野球観戦、クジラ観測船とホストファミリーデイで行ったスワンボートに、昼食のおいしいピザ。今から考えると最初の体調の悪ささえ良い思い出だ。私はこんな機会をくださった長岡京市が好きだ。最後に私を送り出してくれた両親に心からのお礼と感謝を述べたい。

１７．西乙訓高校　２年　　浅島　眞言

僕は、アーリントンに行ったら確かめたい、と思っていたことがありました。と言うのは、自分の英語が相手に通じるのか、と言う事です。約 7 年間僕は英語を学習してきたので、真っ先に確かめたいと思っていました。実際、ホストファミリーとは二日くらいコミュニケーションが取れずに、時間だけが過ぎていきました。しかし、これでは意味が無いと改まり、積極的に話しかけるようにしました。相手は、自分の話を真剣に聞いてくれて、また僕は相手の話を真剣に聞きました。このことで、僕はホストファミリーとコミュニケーションがとれるようになりました。少し時間はかかったけれど、僕はホストファミリーと心を通わせることができ、とても嬉しかったです。僕は、このアーリントン訪問を通して人々の温かい心や団員達と築きあげた仲間関係が、本当に素晴らしいものであり、またそれらの大切さを改めて感じました。

人との「つながり」を大切にし、「つながり」を保ち続けることは大切である。これは、僕が中学生の時に顧問の先生からいただいた言葉です。訪問中僕はずっとこの言葉を抱いていました。これからも「つながり」を大切にして、ホストファミリーと接していけたらと思います。

最後に、4 人の先生方と 20 人の仲間へ・・・Thank you so much!!

１８．西乙訓高校　２年　　青山　恵理子

私は、アーリントンでの 10 日間の研修で、素晴らしい体験とたくさんの思い出ができました。その中でも一番心に残っているのが、ホストファミリーデイです。私は、パブリックガーデンという自然が美しい公園に連れて行ってもらいました。美しい自然の中でボートに乗り、ホストファミリーとおしゃべりしたり、お昼にピザを一緒に食べたり、ゆったりとした時間を過ごす事ができました。私のホストファミリーはいつもニコニコしていて、私にとても優しくしてくれました。私は正直、最初の 2 日間くらいは言葉も通じないし、ホストファミリーといるより、一緒に行ったメンバー達といる方が楽しいと思っていました。でも、3 日程経った頃には、雰囲気で英語を掴む事ができるようになり、自分の事が話せるようになり、会話が弾みました。最後には、ホストファミリーといる時と、メンバー達と研修している時のどちらも楽しくなり、毎日が充実していました。

そして次は、小・中・高校の授業体験です。一番心に残ったのは、オトソン中学校です。みんな私が教室に入るなり、拍手や声を掛けてくれ、温かい雰囲気がそこにはありました。中学生は本当に気さくで、緊張していた私ですが、すっかり馴染む事ができました。そこには、一期一会の出会いがありま

した。私はこのような一生に一度の出会いを、大切にしていきたいです。最後に、この研修旅行に携わってくださった多くの方々、引率してくださった先生達、そして見ず知らずの私を泊め、親切にしてくださったホストファミリーには、本当に感謝しています。この研修に行き、自分なりに頑張ってきて、自信も付いたと思います。これからは、アーリントンで学んだ数多くの事を心に刻み、感謝の気持ちを忘れずに、日々を過していきたいです。

１９．西乙訓高校　２年　　島田　知美

私は、今まで一度も日本から出た事がありませんでした。だから、このプログラムのおかげで、初めてアメリカのアーリントンに行くことができました。アーリントンに着いてからは、「初めての異国の地で、何をどうしたらいいのか？」といった不安は、徐々に無くなっていきました。それは、ホストファミリーや、私と関わってくれた人々がとても良くしてくれたからです。私が聞き取れるようにと、ゆっくり英語を話してくれました。私の稚拙な英語にも笑わずに、何を言おうとしているのか、汲み取ろうとしてくれました。そして、何よりも笑顔で接してくれました。私は、彼らの優しい姿を見て、将来は人を安心させられるような人になりたいと思います。

私に優しくしてくれた人の一人に、韓国人の女の子がいます。彼女は、韓国語と英語が話せましたが、日本語は話す事ができませんでした。彼女と知り合って何日かして、彼女に言われた言葉があります。「日本語で話をされていると、仲間外れにされている気がする。」と。普段は、とても明るく元気な彼女にこう言われ、自分勝手な自分にショックを受けました。自分が英語で話をされると、似たような気持ちになっていたのに・・です。彼女に言われてからは、自分が日本語しか話せないからと言って、日本人とばかり関わっているのは良くない、と改めて実感させられました。それから私は、アーリントンでの滞在中、何人もの現地の人々と話をしました。すると彼らは、相変わらず優しく笑顔で接してくれました。私は、そのことに、胸が温まりました。私は、誰かに仲間外れだと思わせることが無いよう、笑顔で人と接することができるような人間になりたいです。

２０．西乙訓高校　２年　　上羽　一肇

“Thank you !”　この言葉は、僕が今回の訪問で最も多く使った言葉です。僕は、日本を出発する前に「常に感謝の気持ちを忘れるな！」と、自分に言い聞かせました。この自分との約束は、アーリントンでの生活で大変役に立ちました。ホストファミリーは、初対面の僕を温かく迎えてくれました。夕食で、到着するまでに起きたトラブルについて話すと、「大変だったね。疲れているだろうから今日はゆっくり寝ていいよ。」と、言ってくれました。それは、僕を家族の一員として認めてくれたような気がした、不思議な言葉でした。同時に、英語での会話への不安はこの一言で打ち消すことができました。

他にもたくさんの場面で、たくさんの人から協力してもらって、楽しく過ごすことができました。僕は、今回協力してくれた一人一人に、感謝したいです。日本人同士の協力も、僕にとっては印象的でした。さくら祭りで最後の鳴子踊りの前に、20 人が一つのチームになり、発表で最高のパフォーマンスを出来た事が、本当に嬉しかったです。人が協力しあった時の力のすごさを改めて知りました。そして、あっという間にすべてが終わりました。ホストファミリーとのお別れのときは、笑顔でお別れできまし

た。日本に帰ってからも、ときどき今回の訪問の事を思い出します。その度に、「この経験を未来に生かしたい。」と思います。

　最後に、今回の訪問に関わってくださった先生方に感謝したいです。

そして、20 人の仲間へ「ありがとう！！」

No.1

April
24, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

今日の主な出来事
- 出発式
- 成田空港見学
- シカゴ空港で軽食
- 往路変更で、テキサス州へ
- ホストファミリーとの出会い

平成 23 年4月 23 日(土)10 時 30 分に、小田豊市長をはじめ、芦田教育長、関係者の皆さん、そして、ご家族の皆さんにお見送りをいただき、新しい発見、新しい出会い、新しい自分を発見する旅に出発しました。

シカゴ空港到着までは予定通りだったのですが、シカゴ空港での入国手続きの際、他の便とも重なり、長蛇の列に。その間に、エアライン内での連絡ミスもあり、乗る予定の便が出発してしまうというハプニングにあいました。

しかし、ハイスクールリーダーの上羽君の「いいようにとろう！」の掛け声で、急遽シカゴ空港めぐりをしました。豪華な夕食を食べ、テキサス州のダラス空港へ移動。今回予定にはなかったホテル滞在を、RAMADA ホテルですることができました。すべての費用はエアライン持ちとなりました。

そして、1日遅れとはなりましたが、現地時間の 24 日 11 時にボストン空港へ到着。ホストファミリーの顔を見たら、疲れも吹っ飛ぶような歓喜の出会いに。何かとご心配をおかけしましたが、ご安心ください。

本日予定のシックス・フラッグについては、来週の土曜日に変更。お昼からはホストファミリー・デーとし、少しゆっくりと過ごすことができると思います。さあ、いよいよ明日から、本格的なアーリントン訪問のプログラムがスタートします。

Photo Album

成田空港で、物色中！

成田空港で、ちょっと大人気分を！

シカゴ空港の広さに驚き！

シカゴ空港で軽食を注文も、本当に軽食？！

アメリカンサイズディナーの洗礼を受け、Take out！

No.2

April
25, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

今日の主な出来事
- ・ピアーズ小学校訪問
- ・バーリントン・モール ショッピング
- ・タウン・ミーティング見学

昨日は、ホームステイ先で初めて生活をしました。今朝の集合の時には、互いにどんな風に過ごしたかを子ども同士で情報交換していました。早速スポーツを一緒にしたり、公園やショッピングに連れて行ってもらったりした生徒もいたようです。言葉の意味を理解することに苦労はあるようですが、意志を伝える努力もしていることが話から伝わってきました。

さて、今日はピアーズ小学校を訪問しました。ピアーズ小学校では、一昨年度まで長岡京市の AET として活躍したキャサリン・ゴールドマン先生が仕事をされており、懐かしく感じていた生徒もいました。

授業参観後は、体育館で鳴子踊り等の披露をしました。そして、カフェテリアでの昼食。お昼からは、訪問団が小学校2年生の子どもに、剣玉や折り紙、そして、習字等を教えました。最初こそ、英語で説明する時には苦労をしていましたが、繰り返し説明をする中で、慣れていくようすを見ることができました。

バーリントン・モールでショッピング。英語で悪戦苦闘しながらも、買い物の仕方を学習しました。

今日の最後は、タウン・ミーティングの見学。特別ゲストとして生徒が紹介されるだけでなく、アーリントンで集められた東日本大震災の義援金を団長の方で受け取りました。早速届けたいと思います。

Photo Album

体育館で力強く披露！

バーリントン・ショッピングモールで買い物！

みんなでランニング！

タウン・ミーティングを見学！いい笑顔です！！

No.3

April
26, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

自分たちの意志で、自分たちの力でつくった国！

今日の主な出来事
- ・ロビンス図書館　見学
- ・レキシントンセンター　見学
- ・コンコードの有名店で食事
- ・コンコードでサイクリングツアー
- ・Minuteman　Museum　見学

今日は、アメリカの伝統と歴史を学んだ1日でした。

朝一番に、2年前、小田市長が植樹した桜の木の前で写真撮影をしました。桜はこれからのようです。

続いて、ロビンス図書館を見学しました。置かれている書物だけでなく、建物そのものにも興味を持ち、写真をたくさん撮っている子どももいました。

その後、レキシントン、そして、コンコードへと移動し、主にアメリカ独立への歴史を学びました。歴史上意味のある石碑や建物等を見学する中で、「自分たちの意志で、自分たちの力でつくった国。」であるという説明がありました。とても意味のある言葉でした。

そして、お昼前から、2つのグループに分かれて、コンコードにある「COLONIAL　INN」という有名なお店での昼食とサイクリングツアーを。

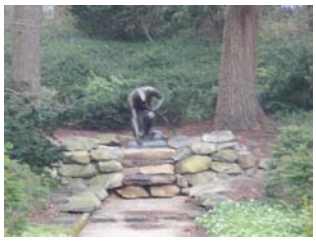
サイクリングツアーは、1時間前後乗ったので、ややバテ気味の者（特に、スタッフ？！）もいました。しかし、走り終わった後にいただいたミネラルウォーターやリンゴはとてもおいしかったです。

Minuteman　Museum の見学の際には、アメリカ独立までの戦いのようすを映像等で学びました。

今日は、いつもより早く終わりました。ホストファミリーが迎えにきてくれるまでの間、芝生の上でサッカーを楽しんでいました。これまで、みんなで遊ぶという機会に恵まれなかったのですが、いい雰囲気を子ども同士でつくり、素顔を出したような気がしました。学年や性別を超えたチームの輪が絆になるために、必要な時間と感じました。

Photo Album

朝一番の顔です。小田市長が植樹した桜の木の前で、ワンショット！これから開花します。



銅像のまねを。

サイクリングツアーは、とても気持ちよかったです。

No.4

April
27, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

英語を覚える秘訣とは、「人よりできるものを見つけること」

今日の主な出来事
- ・アーリントン高校　訪問
- ・ハーバード大学　見学
- ・ハーバード生協でショッピング
- ・長岡第四中学校出身ハーバード大学石井水晶教授を訪問

アーリントン高校　中学生は、校内見学、グループでの授業体験。高校生は朝からシャドーイング（＝西乙訓高校の生徒1人に対し、アーリントン高校の生徒が1人つき、同じように過ごすこと。）。ほぼ半日、アーリントン高校の生徒と一緒に授業を受けるというチャレンジをしました。

そして、小学校に引き続き、高校でも、よさこいソーランと長岡京音頭を披露。リーダーの上羽君と藤野さんのスピーチ、そして踊りとともに、前回の小学校の時よりさらにいい発表でした。音楽の音が小さく、全員で合わせにくい場面もありましたが、自分たちで乗り越えることができたところも素晴らしかったです。Good　job!

その後、中学生は、やや緊張したようすで授業体験をしました。アーリントン高校の生徒が分かりやすく話してくれ、中学生は的確に反応し、学習にチャレンジしたり、ゲームや会話を楽しんだりしていました。

昼食は、高校内のカフェテリアで。どれを見ても、やはりビックサイズ。バランスを考えてか、サラダバーに集まっているように思いました。

最後に、美術の授業体験をして、高校でのプログラムは終わりました。

ハーバード大学見学　路線バスに乗って、ハーバード大学へ向かいました。校舎の多さに、驚きの声が。大学の生協では、お家の人や学校の友達等の顔を思い浮かべながら、買い物を。中には、「おじいちゃんやおばあちゃん、担任の先生は、こんなの喜びますかね？」というような相談が相次ぎました。

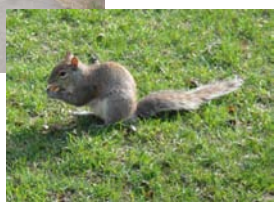
長岡第四中学校出身　ハーバード大学石井水晶（みあき）教授を訪問

地震学者の石井教授のお計らいで、他の研究室を見学させていただきました。生徒の興味を引いたのは、火星の表面を探索するロボットのモデル。レゴで作られていたので、興味倍増。その後、石井教授から、自己の生育も含めたお話をしていただきました。13 歳の頃にアメリカへ引っ越され、英語を覚えるために、大変な苦労があったとのこと。英語を覚える秘訣は、「人よりできるものを見つけること」。そうすることで人は注目してくれ、会話も増え、英語を自然に覚えていくということでした。また、初めから地震学者を目指していたわけではなく、人との出会いで考えを変えていき、最終的に地震学者になったとも。中高生にとって、参考になるお話でした。

Photo Album

石井水晶教授を囲んで！

路線バスで移動！



カフェテリアで昼食！

発表後に教育長からのプレゼントが！

英語の授業、がんばりました！

美術の体験！誰が書いたの？？

No.5

April
28, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

最後のよさこいソーランをやり切るために、団結！
「最後やし、みんなで声を出そうや！」
「100％出し切って、がんばろう！」

今日の主な出来事
- オトソンミドルスクール　訪問
- スポーツ交流会
- 桜まつり、ダンスパーティーに参加

オトソンミドルスクール訪問　今日は、中高生とも、オトソンミドルスクールを訪問。朝からお昼まで、シャドーイングをしました。どこを歩いても、右のような手描きポスターが貼られ、温かい歓迎を受けました。

授業に入ると、同じ教科でも、内容や進度が違うことに驚いていたようすでした。自分から手を挙げてどんどん発表していくようすにも、ややとまどいがあったような感じもしました。

スポーツ交流会　カフェテリアで食事をとった後は、交流会。スポーツだけでなく、ゲームや折り紙等を楽しみながら、オトソン中学校の生徒と触れ合いました。また、バスケットボールでは、男女混合チームで対決する等、いい雰囲気の中で遊ぶことができました。

桜まつり、ダンスパーティーに参加　夜は桜まつりに参加しました。長岡京音頭、3曲の合唱、そして、フィナーレを飾る「よさこいソーラン」、以上3つの発表をしました。また、特別に、平岡さん、藤野さんは、剣道を披露。すべて、会場から大きな拍手をいただきました。

実は、フィナーレを飾るにあたって、あるドラマがありました。

「よさこいソーラン」を踊る際、どうしても掛け声が弱く、迫力に欠けるという課題を残していました。そこで、団長自ら生徒達に、次のように問いかけました。

「みんなで踊る最後のよさこい。声が小さいという課題を残している。みんなが踊り終わり、拍手をもらった時に、頑張ってよかったと思えるような拍手であってほしい。この課題を解決する方法を、大人からこうしなさいと言うこともできるが、自分たちで考えることもできるはず。リーダー、どうする？」と。

すると、すかさず浅島君が「最後やし、声出そうや。」と第一声を。続けて中学生リーダーの藤野さんが、「私たちで考えます。」と。その後、生徒同士の話し合いの中で、高校生リーダーの上羽君が、「100％出し切って、頑張ろう！」とみんなに語ったようで、その時はみんなで拍手をしていたようです。

その後、本番前にサンダルを履いて踊ろうとしていた生徒を発見し、裸足になるよう団長から話すと、山崎君が、「それなら、全員裸足で統一しよう。」と。さらに、よさこいソーランが始まる前に、ステージの真ん中で円陣を組み、「We　Love　Japan」と掛け声を出して、スタンバイの体勢に。20　人の気持ちが1つになっていたので、出来映えは言うまでもありません。見ている者を感動させました。

その後、ダンスパーティーにも参加。最初は多少のとまどいもあったようですが、自然にとけ込み、「よさこいソーラン」の頑張りもひょっとしたら忘れてしまうほどの盛り上がりでした。

Photo Album

桜まつりで、大活躍！浴衣も、注目の的でした。

ダンス・パーティーは盛り上がりました！

シャドーイング！

No.6

April
29, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

今日の主な出来事
- ホエール・ウォッチング
- クインシーマーケットで買い物
- メジャーリーグ観戦
（レッドソックス VS マリナーズ）

次の目標は、プログラムも終盤に入っているので、
「今までの付き合いは大切にしてほしい。」
「でも、毎日 20 人全員と1回は話そう！」

朝のミーティングで、昨日の生徒達の頑張りを誉め（特に、自分たちで声を出そうと工夫したこと。）、上記のような今後の目標を指導者より提案しました。そのような目標を立てる意味があるかを生徒に聞いたら、高校生の島田さんが「当たり前のことと思う。意味はあると思う。」というようなことを発言しました。早速、高校生女子2人はホエール・ウォッチングの際、別々に分かれ、中学生の中へ自ら入ろうとしていました。中学生も、負けまいと、いろんな人と話そうとしていました。アーリントンでみんなと過ごせる日もわずかとなってきました。一緒に行ってよかったと思えるチームになればと願うばかりです。

ホエール・ウォッチング　今日は、朝から快晴。波も非常に低く、絶好のホエール・ウォッチング日和。誰も船酔いしませんでした。くじらが見つかるまで時間はかかりましたが、発見すると、ひれを水面にたたきつける場面を何度も見ることができました。

クインシーマーケットでショッピング　ホエール・ウォッチングのスタート場所に近い、クインシーマーケットで3時間ほど、自由にショッピングを楽しみました。

メジャーリーグ観戦　レッドソックスとマリナーズの対戦。先発ピッチャーが松坂投手、先頭打者イチロー選手で対戦がスタート。途中岡島投手も中継ぎで登板するという、日本からの観戦者にとっては最高の試合でした。結果は、2安打したイチロー選手が得点に絡むという試合でした。最終結果は5対4でマリナーズが勝利。座ったスタンドは、ライト側外野席の前の方でした。レッドソックスの選手が放った最初のホームランが届いた場所のあたりでした。

Photo Album

ボストンで、エキサイトした一日でした！！

No.7

April
30, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

Thank you for all your kindness.

今日の主な出来事

・夕方までホストファミリー・デー
・フェアウェルパーティー

今日の夕方まではホストファミリー・デー。ダックツアーやボストン美術館等、ボストン市内を案内してもらった人、家のお手伝い等をした人、様々な過ごし方をしたようです。再会したときには、嬉しそうな表情で報告をしてきた生徒もいました。

夕方からは、有井さんをホストしていただいているタナー家で、フェアウェルパーティー。一つのご家庭に、お世話をしてくださった大勢の方、そして、私たち一団の 24 名が集まれるということ自体に驚きました。それだけでなく、家の中でダンスパーティーができたり、2階のバルコニーにマイクを設置してステージにできたりと、私たちは驚きばかり。そんなステージで、スクールリーダー2名と団長がお礼の挨拶をさせていただきました。

実際には、お別れの日までは少しあるので、別れを惜しむというシーンは少なかったものの、スピーチ後のリーダー2人は感じるところがあったようです。

団長からも、冒頭のようなお礼をお伝えするとともに、次のようなこともメッセージにして伝えました。

On behalf of our country, thank you for warm and thoughtful support.
We keep our spirits up in spite of tsunami and earthquake that hit east Japan.
We say “Ganbaro Nippon”, in Japanese.
To Japanese students, we are all friends as a team of Nagaokakyo forever.

Photo Album

第７号は、生徒の写真が少ないため、ダックツアーで見たボストンの街並みを写真でご紹介いたします。

No.8

May
1, 2011

News From Arlington

2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

「みんなと一緒に行ってよかったと思えるよう、誰とでも話せるようにしよう。そのため、今日は、グループで活動！」

今日の主な出来事
- ・バスで移動（往路2時間）
- ・シックス・フラッグで遊園
- ・バスで移動（復路2時間）

アーリントン訪問団が野外での活動になると、雲一つない快晴に恵まれます。昼から気温が上がるものの、湿気が少なく、過ごしやすい一日となりました。

シックス・フラッグはマサチューセッツ州の端の方になるようで、ハイウェイを2時間近く走ったところにありました。

さて、みんなと一緒に過ごせるのも残りわずかとなりました。冒頭のとおり、みんなと一緒にアーリントンへ行ってよかったと思えるようにするために、高校生が班長となり（1つの班のみ中学生）、グループ活動という形で楽しみました。

中学生に聞くと、「いろいろなハプニングもあったけど、自分たちのことを気にかけてくれていた。いい班長だった。」というのが、圧倒的な感想でした。

なお、絶叫マシーンには、挑戦する生徒、挑戦しようとする生徒、休憩していた生徒と様々でした。

班のメンバー

班長：島田さん
班員：能勢くん　米山さん
　　湯川さん

班長：出口さん
班員：平岡さん　藤野さん
　　山崎くん

班長：青山さん
班員：大村さん　渡邉さん
　　栗栖くん

班長：上羽くん
班員：伊東さん　池野さん
　　木畑くん

班長：浅島くん
班員：八木さん
　　有井さん
　　村田さん

Photo Album

班長：出口さん
班員：平岡さん　藤野さん
　　山崎くん
　この班は活動中一度も出会えず、写真を撮ることができていません。

今回の訪問に際して、コーディネーター役や案内役をしていただいたスーさん。ありがとうございました。

No.9

May
2, 2011

News From Arlington

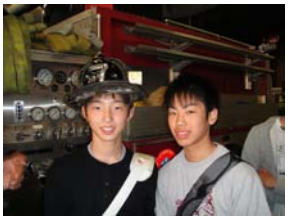
2011 SLOGAN
Challenger
Messenger
Teamplayer

発行　長岡京市教育委員会　学校教育課

「バークレー音楽大学とは、やりたい音楽がやれる学校。」
「音楽が好きで、友人が好きなら、音楽はできる。ハートがあれば、できるということ。」

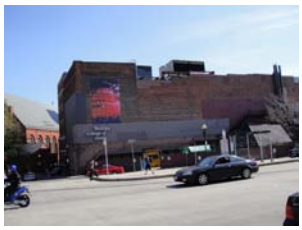
今日の主な出来事
- ボストン消防署　見学
- プルーデンシャルビル　見学
- バークレー音楽大学　見学
- バーベキューパーティー

今日も、一日快晴。天候を味方にできる生徒達。おかげで、プルーデンシャルビルから見えるボストン市内はたいへん美しいものでした。



ボストン消防署　見学　消防署の中のようす（司令室や仮眠室等）を見せてもらったり、消防車に駆けつけるまでの動きを見せてもらったりしました。

プルーデンシャルビル　見学　50 階まで 50 秒で一気にあがるエレベーターに乗り、ボストン市内を一望しました。あまりの美しさに、絶叫している生徒もいました。その後、ビル内で各自食事をし、ショッピングを楽しみました。



バークレー音楽大学　見学　校舎のようすを見せていただき、その後、演奏をしながら指揮者を育てるという授業場面を見せていただきました。その中で、冒頭のようなお話を、大学の先生やその教え子の方からお聞きしました。音楽に関心が高い生徒は質問したり、興味津々で見学したりしていました。

バーベキューパーティー　パーティーを楽しんだ後は、出発直前のコンテストの賞品を、アーリントンの人たちの前で授与しました。その後、ふるさとをはじめ、3曲の合唱を披露。今夜で最後なので、個々に、ホスト・ファミリーへ感謝の気持ちを伝えました。涙、涙の感動的なフィナーレとなりました。

Photo Album